

教えて！！漢方&鍼灸

附属東洋医学研究所
助教 陣内厚子

教えて！！漢方&鍼灸



『保険診療の漢方薬、市販の漢方薬、自費診療の漢方薬、何が違うの？』前編

今回は漢方薬や漢方薬による治療の種類・違いについてお話したいと思います。

最近はドラッグストアにも漢方薬が効能別に並べられていたり、街を歩けば漢方薬局屋さんがあったり...と、随分メジャーなものとなりました。そのせいか「漢方薬を飲んだことがある」という方が多いように感じます。

◆ドラッグストアの漢方薬（市販の漢方薬）とは？

当院で治療中の患者さんから「ここで出される漢方薬と、ドラッグストアで買える漢方薬は同じものですか？」という質問を受けることがあります。「ちょっと違います」とお答えしています。病院から保険診療で処方される漢方薬は「医療用医薬品」、ドラッグストアで買うことができる漢方薬は「一般用医薬品」いわゆるOTCです。



例えば同じ「葛根湯」という名前の漢方薬でも、病院から処方されたものと市販で売っているものだと、中に入っている薬剤の量が違ったりします。ドラッグストア等で気軽に購入できる薬では、副作用などが起こりにくいように医療用よりも「薬材量が少なめ」になっていることが多いです。

まれに医療用と同量の薬が市販薬として出ていることもありますが、まれな例だと思います。副作用が起こりにくいように考えられているとはいえ、薬の作用や個人の反応は予測できないことがありますので、薬剤師さんや登録販売者さんへ相談の上、体調変化に注意を払いながら使用することが望ましいです。

これらのOTCは「週末の風邪などの応急処置」に便利なお薬です。調子が悪い、薬をのみたいけど病院が開いてない...という時にOTCを利用したことがある人は多いのではないのでしょうか。また最近は更年期症状や加齢による症状に対してのOTC漢方薬も多く目にするようになってきました。このようなOTC漢方薬を利用してうまく症状・体調が改善されれば何よりですが、症状改善が得られない時は医療機関への受診をお勧めしています。つらい症状や体調不良の原因に内臓疾患が隠れていることもあります。OTC医薬品は便利なものですが、市販されている短い日数分で改善がみられないような時には、ぜひ漢方専門医へご相談していただけたらと思います。

◆自費の漢方薬（自費診療の病院や漢方薬局からの漢方薬）とは？



“漢方薬は高い”というイメージはありませんか？実際に、自費診療の病院漢方外来や漢方専門薬局で漢方治療を始めると、ひと月にかかる料金は1万円～数万円といった場合が多いでしょう。使う薬の種類や量で価格の差はありますが、最近はホームページなどで1日分の薬代を明確に示している良心的な病院や漢方薬局さんが多いように感じます。なかには怪しい治療でばく大な薬代を求める所もごく一部あるかもしれませんが...

このように漢方薬が高価な値段で販売されているのも無理はありません。漢方薬の基である生薬とは、有限資源なのです。もとは中国で野生に育っていた植物や鉱物・動物を薬の材料として利用していましたが、野生では足りなくなった生薬を栽培して、必要な加工を経て現在の漢方薬が作られています。農作物と同じで、天候にも影響されます

し、年々生薬の野生品は減少してきているのが現状です。中国や日本の生産者の方々や漢方メーカーの製造作業のおかげで、今日の漢方薬が成り立っていると知ると、貴重な漢方薬を有意義に活用しないといけないと日々思いながら診療に励んでいます。

このように貴重な生薬、そして漢方薬ですが、現在は医療用医薬品として保険が適用される（病院で処方箋を出してもらう）漢方薬や生薬もありますので、患者さんの自己負担が少なく手にすることもできます。しかし生薬や漢方薬の中でも特に希少で高価なものは保険外の医薬品となるため、自費での支払いになります。そのため、自費診療の病院漢方外来や漢方薬局では前述したような費用がかかってしまいますが、医療用医薬品にはない希少な生薬やOTC漢方薬を使用できることは大きな魅力です。

例えば、自費生薬・薬に「カワラタケ」「レイシ」「冬虫夏草」などがあります。これらは特に癌治療中等の患者さんがお求めになることが多いですが、他にも医療用にはない自費の薬を使用できることで、より種々の治療に幅が広がりオーダーメイド治療につながるでしょう。

OTCや自費の生薬についてのお話をしました。高価な薬を使えばいいというものではありませんが、自身の体調にとって良い方向に進むのならばそういった薬剤を使用したいと希望される患者さんもうらっしゃいます。治療にかかる費用・価値観は人それぞれ違うと思いますが、現在の日本では保険でも自費でも漢方治療が行えるシステムですので、それぞれの患者さんに適切な助言ができるようにしていきたいと考えています。

次回（後編）は、当施設のような保険診療施設の漢方薬や漢方治療における注意点などをお話ししたいと思います。

